

### シラバス

指定番号 55

商号又は名称：社会福祉法人聖徳会

科目番号・科目名	(1) 職務の理解			
指導目標	①多様なサービスを理解し、介護現場を理解する。 ②実習を通し、介護職の仕事内容や働く現場を理解する。			
項目番号・項目名	時間数	うち 通学学習 時間数	うち 通信学習 時間数	講義内容・演習の実施方法・通信学習課題の概要等 (別紙でも可)
① 多様なサービスと理解	1	1		<講義内容> ・介護の社会化 ・初任者研修の位置づけ ・視聴覚教材を使用して、様々な介護サービスの理解
② 介護職の仕事内容や働く現場の理解	5	5		<実習> ・特別養護老人ホームの見学実習を基本とし、直接介護は行わない。 ・特別養護老人ホームで実習を行い、介護職の仕事内容や現場の理解を深める。 ・実習指導者の他各フロアにいる職員からも話を聞ける体制を構築する。 ・各フロアの受入人数は3名以内とする。
(合計時間数)	6	6	0	

使用する機器・備品等	プロジェクター、PC、テキスト付属 DVD
------------	-----------------------

- ※ 通学時間数には通学形式で講義・演習を実施する時間数、通信時間数には自宅学習にあてる時間数を記入すること。
- ※ 各項目について、通学時間数を0にすることはできない。なお、通信時間数については別紙3に定める時間以内とする。
- ※ 時間配分の下限は、30分単位とする。
- ※ 項目ごとに時間数を設定すること。
- ※ 実技演習を実施する場合は、実技内容・指導体制を記載すること。

## シラバス

指定番号 55

商号又は名称： 社会福祉法人聖徳会

科目番号・科目名	(2) 介護における尊厳の保持・自立支援			
指導目標	<p>①1.人間の尊厳の保持 介護の目標や目的について尊厳、QOL、ノーマライゼーション、自立支援の考えを取り入れて、介護職が利用者の尊厳ある暮らしに直結している専門職であることを理解する。</p> <p>2.人権擁護の基本視点 虐待の定義、身体拘束、サービス利用者の尊厳、プライバシーの保護について基本的なポイントを列挙し、避けなければならない行動について理解する。</p> <p>②自立支援、介護予防の考え方を学び、実践に生かせる程度まで理解する。</p> <p>③基本的人権を理解し、これを支える役割を理解する。</p>			
項目番号・項目名	時間数	うち 通学学習 時間数	うち 通信学習 時間数	講義内容・演習の実施方法・通信学習課題の概要等 (別紙でも可)
① 人権と尊厳を支える介護	3	3		<p>&lt;講義内容&gt;</p> <p>1.人間の尊厳の保持</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・人間の尊厳と自立</li> <li>・ノーマライゼーションの意義</li> <li>・個人の尊厳と法制度</li> <li>・事例を用いて、グループごとに話し合い、利用者、家族の要望にそのまま応えることと自立支援、介護予防の考えに基づいたケアの違いについて学ぶ。</li> </ul> <p>2.人権擁護の基本視点</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・人権擁護の基本視点</li> <li>・利用者の尊厳の保持</li> <li>・事例を用いて、グループごとに話し合い、高齢者の尊厳を傷つける言動を理解すると共に、養護者支援についても考える機会とし、対応方法について学ぶ。</li> </ul>
② 自立に向けた介護	4	4		<p>&lt;講義内容&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・なぜ自立支援が求められているのかについて</li> <li>・尊厳という観点から具体的な事例を用いて理解を深めるため、ロールプレイとグループワークを行い、自立支援に基づいた介護を学ぶ。</li> </ul>
③ 人権啓発に係る基礎知識	2	2		<p>&lt;講義内容&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・基本的人権とその制約</li> <li>・自己決定の尊重を支える仕組みー成年後見制度等</li> <li>・虐待防止法</li> </ul>
(合計時間数)	9	9	0	

使用する機器・備品等	プロジェクター、PC、杖、車いす、折り紙
------------	----------------------

- ※ 通学時間数には通学形式で講義・演習を実施する時間数、通信時間数には自宅学習にあてる時間数を記入すること。
- ※ 各項目について、通学時間数を0にすることはできない。なお、通信時間数については別紙3に定める時間以内とする。
- ※ 時間配分の下限は、30分単位とする。
- ※ 項目ごとに時間数を設定すること。
- ※ 実技演習を実施する場合は、実技内容・指導体制を記載すること。

## シラバス

指定番号 55

商号又は名称： 社会福祉法人聖徳会

科目番号・科目名	(3) 介護の基本			
指導目標	①施設と居宅の介護環境の特性や介護職としての役割、他職種の専門性を理解し、他職種連携や地域包括ケアの役割について理解する。 ②介護職の職業倫理について学び、責任ある行動が取れるようにするため、利用者、家族、社会に対する責任を理解する。 ③介護における安全確保のため、業務上のリスクの内容やリスクマネジメントについて理解する。 ④自身の心身の健康を保つために、ストレスマネジメントや感染症対策について理解する。			
項目番号・項目名	時間数	うち 通学学習 時間数	うち 通信学習 時間数	講義内容・演習の実施方法・通信学習課題の概要等 (別紙でも可)
① 介護職の役割、専門性と多職種との連携	1.5	1.5		<講義内容> ・施設と居宅の介護環境の違いの理解 ・地域包括ケアシステムの方向性 ・専門職としての介護の視点 ・チームケア、アプローチの重要性 ・他職種理解とチームケアの役割分担
② 介護職の職業倫理	1.5	1.5		<講義内容> ・介護の公共性と介護職員の倫理の必要性 ・利用者、家族との関係 ・介護の倫理と規範 ・プライバシーの保護、尊重
③ 介護における安全の確保とリスクマネジメント	1.5	1.5		<講義内容> ・介護事業におけるリスクの内容とその対策 ・介護事故の実際 ・リスクマネジメントの考え方 ・感染症の基本的知識
④ 介護職の安全	1.5	1.5		<講義内容> ・業務上のストレスの理解 ・ストレスマネジメントの理解 ・感染症対策の方法、考え方 ・労働に関する法律の理解
(合計時間数)	6	6	0	

使用する機器・備品等	プロジェクター、PC
------------	------------

- ※ 通学時間数には通学形式で講義・演習を実施する時間数、通信時間数には自宅学習にあてる時間数を記入すること。
- ※ 各項目について、通学時間数を0にすることはできない。なお、通信時間数については別紙3に定める時間以内とする。
- ※ 時間配分の下限は、30分単位とする。
- ※ 項目ごとに時間数を設定すること。
- ※ 実技演習を実施する場合は、実技内容・指導体制を記載すること。

## シラバス

指定番号 55

商号又は名称: 社会福祉法人聖徳会

科目番号・科目名	(4) 介護・福祉サービスの理解と医療の連携			
指導目標	①介護保険制度の理念、基礎的な知識を理解し、介護に従事する者としての役割、責務を理解する。 ②医療職と連携が図れるよう、訪問看護、リハビリテーション職の役割、機能について理解する。 ③障害者福祉制度の理念と仕組みについて、基礎的な知識を理解する。			
項目番号・項目名	時間数	うち 通学学習 時間数	うち 通信学習 時間数	講義内容・演習の実施方法・通信学習課題の概要等 (別紙でも可)
① 介護保険制度	3	3		<講義内容> ・介護保険制度創設の背景及び目的、動向 ・介護保険制度の仕組みの基礎的理解 ・介護保険制度を支える財源、組織、団体の機能と役割
② 医療との連携とリハビリテーション	3	3		<講義内容> ・介護職の行う医行為 ・訪問看護の役割、機能 ・リハビリテーションの理念とリハビリテーション専門職の役割、機能 ・医療職との連携、チームケア
③ 障がい者総合支援制度およびその他制度	3	3		<講義内容> ・障がい者の自立と社会参加の意義と役割 ・我が国の障害者制度の歴史及び障害者福祉制度の理念 ・障害者自立支援法の目的及び概要 ・個人情報保護法 ・成年後見制度 ・日常生活自立支援事業
(合計時間数)	9	9	0	

使用する機器・備品等	プロジェクター、PC
------------	------------

- ※ 通学時間数には通学形式で講義・演習を実施する時間数、通信時間数には自宅学習にあてる時間数を記入すること。  
 ※ 各項目について、通学時間数を0にすることはできない。なお、通信時間数については別紙3に定める時間以内とする。  
 ※ 時間配分の下限は、30分単位とする。  
 ※ 項目ごとに時間数を設定すること。  
 ※ 実技演習を実施する場合は、実技内容・指導体制を記載すること。

### シラバス

指定番号 55

商号又は名称: 社会福祉法人聖徳会

科目番号・科目名	(5) 介護におけるコミュニケーション技術			
指導目標	①介護サービスにおけるコミュニケーションの目的と意義、役割を学び、円滑なコミュニケーションの方法について理解する。 ②チームで仕事をすることの重要性を学び、その技術について理解する。			
項目番号・項目名	時間数	うち 通学学習 時間数	うち 通信学習 時間数	講義内容・演習の実施方法・通信学習課題の概要等 (別紙でも可)
① 介護におけるコミュニケーション	3	3		<講義内容> ・介護という対人援助のコミュニケーションについて、傾聴し共感することの大切さ ・利用者の家族の心理 ・家族介護者とのコミュニケーションの方法 ・認知症の人や言語、視覚、聴覚障がい者とのコミュニケーションと留意点 ・DVD 教材のケース別対応を見て、グループで対応を考え、利用者の気持ちを理解し、介護者としての配慮の仕方について学ぶ。
② 介護におけるチームのコミュニケーション	3	3		<講義内容> ・チームケアの必要性とチームアプローチの効果と意義 ・記録における情報の共有化 ・介護における記録の目的、意義、種類等 ・記録の書き方、ジェノグラム、エコマップ、情報管理 ・コミュニケーションを促す環境 ・コミュニケーションによる共感的理解 ・言葉使いと話し方 ・言語的、非言語的コミュニケーションの方法を二人一組で体験する。
(合計時間数)	6	6	0	

使用する機器・備品等	プロジェクター、PC、DVD 教材「介護スタッフの接遇マニュアル」日本経済新聞社
------------	--

- ※ 通学時間数には通学形式で講義・演習を実施する時間数、通信時間数には自宅学習にあてる時間数を記入すること。
- ※ 各項目について、通学時間数を 0 にすることはできない。なお、通信時間数については別紙 3 に定める時間以内とする。
- ※ 時間配分の下限は、30 分単位とする。
- ※ 項目ごとに時間数を設定すること。
- ※ 実技演習を実施する場合は、実技内容・指導体制を記載すること。

## シラバス

指定番号 55

商号又は名称： 社会福祉法人聖徳会

科目番号・科目名	(6) 老化の理解			
指導目標	①高齢者の老化に伴う、心身の変化について理解する。 ②高齢者の心身の特性、高齢者医療の特殊性(非典型的な症状、薬剤に対する反応性・使用量など)、高齢者によく見られる疾患とその特徴を理解する。			
項目番号・項目名	時間数	うち 通学学習 時間数	うち 通信学習 時間数	講義内容・演習の実施方法・通信学習課題の概要等 (別紙でも可)
① 老化に伴うところとからだの変化と日常	3	3		<講義内容> ・老年期の発達とところの変化 ・老化に伴う体の変化
② 高齢者と健康	3	3		<講義内容> ・高齢者に多い病気についての基礎知識 ・病気が日常生活に及ぼす影響と介護における留意点
(合計時間数)	6	6	0	

使用する機器・備品等	プロジェクター、PC
------------	------------

- ※ 通学時間数には通学形式で講義・演習を実施する時間数、通信時間数には自宅学習にあてる時間数を記入すること。
- ※ 各項目について、通学時間数を 0 にすることはできない。なお、通信時間数については別紙 3 に定める時間以内とする。
- ※ 時間配分の下限は、30 分単位とする。
- ※ 項目ごとに時間数を設定すること。
- ※ 実技演習を実施する場合は、実技内容・指導体制を記載すること。

### シラバス

指定番号 55

商号又は名称： 社会福祉法人聖徳会

科目番号・科目名	(7) 認知症の理解			
指導目標	①認知症ケアの基本原則を学ぶ。認知症ケアの理念を身体面から、心理面から、生活障害面から、社会関係から学ぶ。認知症ケアの一つであるパーソンセンタードケアを理解する。 ②認知症の定義、診断基準、各原因疾患の特徴や認知症の中核症状と行動・心理症状（BPSD）を学ぶ。認知症の中核症状への薬物療法、BPSD の薬物療法を理解する。 ③認知症高齢者の介護の特性について理解する。 ④認知症家族介護者の現状と支援の方法について理解する。			
項目番号・項目名	時間数	うち 通学学習 時間数	うち 通信学習 時間数	講義内容・演習の実施方法・通信学習課題の概要等 (別紙でも可)
① 認知症を取り巻く状況	1.5	1.5		<講義内容> ・認知症ケアの基本原則 ・認知症という病気を身体面、心理面、生活障がい面、社会関係から学ぶ ・認知症の進行に合わせた認知症ケア ・生活の質（QOL）の向上に向けた認知症ケア ・認知症ケアの一つであるパーソンセンタードケア ・疾患別の認知症ケア
② 医学的側面から見た認知症の基礎と健康管理	1.5	1.5		<講義内容> ・認知症の定義と診断基準 ・認知症の原因疾患（アルツハイマー型認知症、血管性認知症、レビー小体型認知症、前頭側頭型認知症、その他の認知症）のそれぞれ特徴と鑑別点 ・中核症状と行動・心理症状（BPSD）の詳細 ・それぞれの薬物療法の実際 ・認知症ケアにおける健康管理の重要性
③ 認知症に伴うこころとからだの変化と日常生活	1.5	1.5		<講義内容> ・認知症の人の生活障がい、心理・行動の特徴 ・認知症の利用者への対応
④ 家族への支援	1.5	1.5		<講義内容> ・認知症の受容過程での援助 ・介護負担の軽減（レスパイトケア）
(合計時間数)	6	6	0	

使用する機器・備品等	プロジェクター、PC
------------	------------

- ※ 通学時間数には通学形式で講義・演習を実施する時間数、通信時間数には自宅学習にあてる時間数を記入すること。
- ※ 各項目について、通学時間数を0にすることはできない。なお、通信時間数については別紙3に定める時間以内とする。
- ※ 時間配分の下限は、30分単位とする。
- ※ 項目ごとに時間数を設定すること。
- ※ 実技演習を実施する場合は、実技内容・指導体制を記載すること。

## シラバス

指定番号 55

商号又は名称： 社会福祉法人聖徳会

科目番号・科目名	(8) 障がいの理解			
指導目標	①障がいの概念と ICF を理解する。 ②障がいの医学的な理解する。 ③家族の心理、かかわり支援の基礎的な理解する。			
項目番号・項目名	時間数	うち 通学学習 時間数	うち 通信学習 時間数	講義内容・演習の実施方法・通信学習課題の概要等 (別紙でも可)
① 障がいの基礎的理解	1	1		<講義内容> ・障がいの概念と ICF の考え方 ・障がい者の基本理念 ・ノーマライゼーション ・高齢者と障がい者の相違点
② 障がいの医学的側面、 生活障がい、心理・行 動の特徴、かかわり支 援等の基礎的知識	1	1		<講義内容> ・身体障がい、知的障がい、精神障がい、発達障がい、高次脳 機能障がい、内部障がい、難病のある方々の医学的理解、特 性
③ 家族の心理、かかわり 支援の理解	1	1		<講義内容> ・家族の心理内容や受容の重要性 ・介護負担や支援
(合計時間数)	3	3	0	

使用する機器・備品等	プロジェクター、PC
------------	------------

- ※ 通学時間数には通学形式で講義・演習を実施する時間数、通信時間数には自宅学習にあてる時間数を記入すること。  
 ※ 各項目について、通学時間数を 0 にすることはできない。なお、通信時間数については別紙 3 に定める時間以内とする。  
 ※ 時間配分の下限は、30 分単位とする。  
 ※ 項目ごとに時間数を設定すること。  
 ※ 実技演習を実施する場合は、実技内容・指導体制を記載すること。

## シラバス

指定番号 55

商号又は名称： 社会福祉法人聖徳会

科目番号・科目名	(9) ところとからだのしくみと生活支援技術			
指導目標	<p>①介護専門職としての理論と法的根拠に基づく介護について基本的な考え方を理解する。</p> <p>②加齢や社会的環境の変化などによって生じるところの変化から、いきがいのある生活を理解する。</p> <p>③人体の仕組み、働きやバイタルチェックを学び、介護をする上で必要な基礎的な知識を理解する。</p> <p>④介護の目的を理解した上で、家事支援を行うことの重要性を学ぶ。</p> <p>⑤住まいと福祉用具の安全について学ぶ</p> <p>⑥整容・着脱衣に関する基礎知識・技術、などを理解・取得し安全・清潔などの意義について学ぶ。</p> <p>⑦介護職が、どのような環境であっても、その人の持っている能力を生かした移乗、移動介助を行えるよう、具体的イメージを持って実感し、実践的に取り組めるように学ぶ。</p> <p>⑧食事に関する基礎知識を学び、食事環境、用具、形態を知り、具体的な食事介助が出来るように学ぶ。</p> <p>⑨入浴のもつ意味や個別性、および皮膚の生理的機能や皮膚の汚れについて理解し、安全な援助方法を学ぶ。</p> <p>⑩排泄に関する基礎的理解ができ、さまざまな排泄用品の活用と排泄を阻害する要因について学ぶ。</p> <p>⑪睡眠に関する基礎的理解ができ、安眠への支援、寝具の使用方法について学ぶ。</p> <p>⑫終末期ケアに関する学びを深め、必要な知識と援助技術を習得し、その人らしい最期を考えられるように学ぶ。</p> <p>⑬人間としての尊厳の保持と自立生活支援の観点から介護過程の意義と役割を理解し、介護過程が展開できる能力と態度を理解する。</p> <p>⑭事例をもとにアセスメントを行い、介護計画を検討できるよう理解する。</p>			
項目番号・項目名	時間数	うち 通学学習 時間数	うち 通信学習 時間数	講義内容・演習の実施方法・通信学習課題の概要等 (別紙でも可)
① 介護の基本的な考え方	2.5	2.5		<講義内容> ・倫理に基づく介護 (ICF の視点に基づく生活支援、我流介護の排除) 法的根拠に基づく介護
② 介護に関するところのしくみの基礎的理解	3.5	3.5		<講義内容> ・自分個人内 (あるいは家族) の体や心の変化 ・高齢者の自己実現やいきがい ・「からだの状態がところに与える影響、又、ところの持ち方が行動に与える影響」についてグループディスカッションを行う。
③ 介護に関するからだのしくみの基礎的理解	4	4		<講義内容> ・人体の各部位の名称、はたらき ・運動動作の基礎知識、ボディメカニクスの活用 ・中枢神経系と体性神経に関する基礎知識 ・バイタルチェックの必要性
④ 生活と家事	5	5		<講義内容> ・家事支援の必要性、目的、基本原則 ・適切な家事支援と、自立支援 <演習実施方法> ・調理支援での基礎知識を深める為に調理実習を行う。
⑤ 快適な居住環境整備と介護	6	6		<講義内容> ・高齢者や障がい者にとって、安全に動作ができる、室内環境 ・安全で快適な室温・湿度・照明などの住宅設備 ・福祉用具の正しい選び方と、注意すべきポイント <演習実施方法> ・福祉用具の正しい使い方をグループに分かれて演習し、利用者の立場も体験する事で、何故そうするのかという根拠について学ぶ。

⑥ 整容に関連したところとからだのしくみと自立に向けた介護	7	7		<講義内容> ・身体状況に合わせた衣類の選択と着脱 ・整容の意義、効果 ・口腔ケアの理解 <演習実施方法> ・整容援助や着脱衣、ベッド上での全身清拭について実技を行う。
⑦ 移動・移乗に関連したところとからだのしくみと自立に向けた介護	7.5	7.5		<講義内容> ・日常生活における移動・移乗に関する基礎知識 ・利用者と介護者の双方が安全で安楽な方法 ・ボディメカニクスの基本原理 ・移乗・移動介助の具体的な方法 ・褥瘡予防 <演習実施方法> ・2人1組となり移動、移乗介助を行い、利用者、介助者双方の気持ちを学ぶ。
⑧ 食事に関連したところとからだのしくみと自立に向けた介護	7	7		<講義内容> ・食事のもつ意味、食事の生理的な仕組み ・食事介助のポイント、留意点 <演習実施方法> ・食事をする際の姿勢、身体状態に応じた食事介助について実際の食品を用いて方法を学ぶ。
⑨ 入浴、清潔保持に関連したところとからだのしくみと自立に向けた介護	7.5	7.5		<講義内容> ・入浴の持つ意味 ・入浴時の確認事項 <演習実施方法> ・特殊な用具や浴槽を用いて演習し、安全に入浴できる介護方法を学ぶ。
⑩ 排泄に関連したところとからだのしくみと自立に向けた介護	7	7		<講義内容> ・排泄に関連した心と身体の仕組み ・自立に向けた排泄援助 <演習実施方法> ・おむつ交換の手順を学ぶ。 ・PWCへの誘導方法を学ぶ。
⑪ 睡眠に関連したところとからだのしくみと自立に向けた介護	4	4		<講義内容> ・睡眠に関する基礎知識と介護 <演習実施方法> ・ベッドメイキングの手順を学ぶ。
⑫ 死にゆく人に関連したところとからだのしくみと終末期介護	3	3		<講義内容> ・終末期ケアについての基礎知識 <演習実施方法> ・喪失体験などのロールプレイを行う。
⑬ 介護過程の基礎的理解	5	5		<講義内容> ・介護過程の目的、意義、展開 ・介護過程とチームアプローチ <演習実施方法> ・グループによるディスカッションを行う。
⑭ 総合生活支援技術演習	6	6		<講義内容> ・事例をもとに利用者のアセスメント、介護計画の作成 ・個人ワーク、グループワークを通じて、利用者の心身の状態に合わせた介護計画の作成過程 <演習実施方法> ・個人ワーク、グループワークを行う。
(合計時間数)	75	75	0	

使用する機器・備品等	プロジェクター、PC、調理用具、電動ベッド、ベッド用手すり、ベッド柵、車椅子、タオル式、バケツ、ボトル、爪切り、ドライヤー、ソーブー式、ビニール袋、歯ブラシ、ガーグルベース、洗面器、コップ、薬のみ、スポンジブラシ、ガーゼ、舌ブラシ、アイマスク、杖、4点杖、箸、スプーン、自助具等、エプロン、薬飲み、三角マット、クッション、衣類一式、ポータブルトイレ、清拭タオル等の排泄用品、枕、シーツ・キルティング
------------	---

※ 通学時間数には通学形式で講義・演習を実施する時間数、通信時間数には自宅学習にあてる時間数を記入すること。  
 ※ 各項目について、通学時間数を0にすることはできない。なお、通信時間数については別紙3に定める時間以内とする。

- ※ 時間配分の下限は、30分単位とする。
- ※ 項目ごとに時間数を設定すること。
- ※ 実技演習を実施する場合は、実技内容・指導体制を記載すること。

## シラバス

指定番号 55

商号又は名称： 社会福祉法人聖徳会

科目番号・科目名	(10) 振り返り			
指導目標	①研修を通じ学んだことを今後継続して学ぶべきことについて再度理解する。 ②継続的に学ぶことの大切さを理解し、具体的なイメージができるような実例を用いて理解する。			
項目番号・項目名	時間数	うち 通学学習 時間数	うち 通信学習 時間数	講義内容・演習の実施方法・通信学習課題の概要等 (別紙でも可)
① 振り返り	2	2		<講義内容> ・研修を通し学んだ事を、テキスト(チェックシート)を用いて再度学習する。
② 就業への備えと研修修了後における実例	2	2		<講義内容> ・介護人材の資格制度の理解 ・国が推進している介護技術の評価制度の動向 ・実例を用いて、OJTや自己学習による自己研鑽の必要性
(合計時間数)	4	4	0	

使用する機器・備品等	プロジェクター、PC
------------	------------

- ※ 通学時間数には通学形式で講義・演習を実施する時間数、通信時間数には自宅学習にあてる時間数を記入すること。
- ※ 各項目について、通学時間数を0にすることはできない。なお、通信時間数については別紙3に定める時間以内とする。
- ※ 時間配分の下限は、30分単位とする。
- ※ 項目ごとに時間数を設定すること。
- ※ 実技演習を実施する場合は、実技内容・指導体制を記載すること。